



Title	モンゴル語オラド方言の副動詞接尾辞-jAAについて
Author(s)	ホリロ
Citation	北方言語研究, 12, 95-111
Issue Date	2022-03-20
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/84901">http://hdl.handle.net/2115/84901</a>
Type	bulletin (article)
File Information	09_Haorlie.pdf



[Instructions for use](#)

## モンゴル語オラド方言の副動詞接尾辞 -jAA について

ホリロ

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

キーワード：モンゴル語、オラド方言、譲歩、逆接

### 0. はじめに

モンゴル語<sup>1</sup>では、譲歩を表す副動詞接尾辞として -baču/-bečü<sup>2</sup> が広く用いられる。しかし、中国領内のモンゴル語においては -jAA<sup>3</sup>, -jAAʈʰ, -jAAʃ という形式が観察され、使用頻度は比較的高い。これらに関しては文法書などで簡単に触れた研究はあるものの、詳細な分析を行ったものは管見の限り見あたらない。本稿では、モンゴル語オラド方言の副動詞接尾辞 -jAA に焦点を当て、その形態統語的特徴と意味機能を記述する。

本稿の構成は次の通りである。まず第1節においてオラド方言の概略を紹介する。次に、第2節で本稿における「譲歩」と「逆接」について述べる。第3節でモンゴル語諸方言における -jAA, -jAAʈʰ, -jAAʃ 形式の分布を確認し、先行研究における記述をまとめる。第4節で調査資料を提示し、第5節でオラド方言の -jAA の用例を分析し、この形式の形態統語的特徴及び意味機能を整理する。そして第6節でまとめと今後の課題を示す。なお、本文中の例文番号、グロス、和訳、文字飾りは特に断りのない限り筆者によるものであるが、先行研究における例文の表記は原文のままとする。出典を示していない例文は筆者の調査で得られたものである。

### 1. オラド方言の概略

モンゴル語オラド方言<sup>5</sup> (以下、オラド方言) は、主に中国の内モンゴル (内モン) 自治区バヤンノール (巴彥淖爾) 市オラド (烏拉特) 前旗、オラド中旗、オラド後旗及びボグト (包頭) 市西郊のアガロータイソム (阿嘎如泰蘇木)、バドガル・ジョー (五当召) 周辺に居住するモンゴル人によって話されている方言を指す。歴史的には、オラド部はホルチン万户左翼の7つのオトク<sup>6</sup>の1つであり、清朝の初め頃の17世紀30~40年代にフルンボイル周辺から現在の居住地に移住してきた経緯がある (Urad teüke soyul nairayulqu komis 2013: 45,

<sup>1</sup> 本稿で扱うモンゴル語は、中国領内のモンゴル語諸方言とモンゴル国のハルハ方言のほかにロシアのカルムイク語とブリヤート語を含める。

<sup>2</sup> -baču/-bečü はモンゴル語の文語表記であるが、各方言では -btʃ, -bAtʃ, -wAtʃ(i), -(g)UUʈʰ などの形で現れる。

<sup>3</sup> 大文字は母音調和による異形態があることを示す。また本稿の研究対象である -jAA ~ -jAAʈʰ ~ -jAAʃ のグロスは -JAA で統一する。

<sup>4</sup> -jAAʈʰ は、副動詞接尾辞 -jAA に譲歩小辞 =ʈʰ が後続してできた形であり、-jAA と同様に譲歩を表す副動詞接尾辞として機能する。内モンゴルで話されているホルチン、バルガなどの方言において、摩擦音化して -jAAʃ になる。文語表記は -yaču/-yečü になる。

<sup>5</sup> 本稿で扱うオラド方言 (図1の①) の音素目録は次のとおりである: /p, b[b~β], t, d, (f), s, (ʃ), š[ʃ], k, g[g~g~ɣ~ɣ], x[x~x~q~k], (ts), (dz), (tʃ), (dʒ), č[ʧ], ʃ[ʧʃ], m, n, ŋ, r, l, (w), j, xʲ, mʲ, nʲ, lʲ, bʲ, gʲ; a, aa, ə, əə, i, ii, ɪ, ɪɪ, ɔ, ɔɔ, ʊ, ʊʊ, u, uu, ɛ, ɛɛ, œ, œœ, ui, ue, ue, ua/. カッコ内は借用語のみに現れる音素である。

<sup>6</sup> オトクとは、モンゴルの社会集団の名称であり、万户 (トゥメン) を構成する単位である。

61)。中国の2010年の国勢調査によれば、オラド方言が主に使用されている三旗に居住するモンゴル族の人口は46,193人<sup>7</sup>である(巴彦淖爾市第六次全国人口普查領導小組辦公室(編)2012)。しかし、オラド方言の話者数については詳らかではない。また、話者のほとんどが漢語(中国語晋方言)との二言語併用者である。

Лувсанвандан(1959)やČenggeltei(1978)などの従来の方言区画では、モンゴル語オラド方言をチャハル方言<sup>8</sup>の下位方言と位置付けている。地理的分布から見て、オラド方言は隣接するモンゴル語諸方言、すなわち、ハルハ方言、アラシヤン方言、オルドス方言の影響を受けているのは明らかである。Naranbatu(1994)によれば、オラド方言は陰山山脈の支脈である烏拉山(Muna ayula)を境に大まかに2つに分けられる。オラド前旗とボグト市西郊で話されるオラド方言(図1の①)は独自の特徴(例えば、チャハル方言の中舌円唇母音öやハルハ方言の破擦音ts,dzがない)を持っているのに対し、モンゴル国と隣接するオラド中旗とオラド後旗で話されるオラド方言(図1の②)はハルハ方言の影響を大きく受けていることを踏まえ、前者をオラド方言、後者をオラド下位方言と称するのが適切であると指摘されている(Naranbatu 1994: 29)。

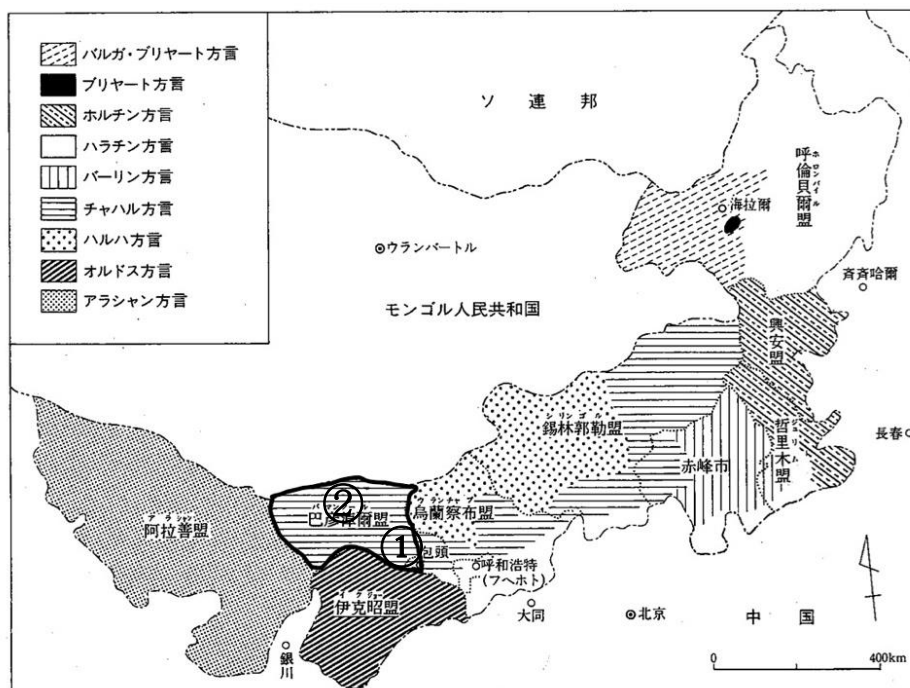


図1：オラド方言が話される地域(栗林1989: 1429をもとに筆者作成)

<sup>7</sup> そのうちオラド前旗のモンゴル人は10,363人で、同旗総人口293,269人の3.53%を占める。オラド中旗とオラド後旗のモンゴル人はそれぞれ21,825人(同旗総人口134,204人)と14,005人(同旗総人口65,207人)であり、各旗総人口の16.26%と21.48%を占める。

<sup>8</sup> チャハル方言は内モンゴル自治区で話されているモンゴル語の一方言であり、中国領内のモンゴル語の標準語とされている。

本稿で扱うオラド方言は、オラド前旗とボグト市西郊で話されるオラド方言(図1の①)のことを指す。オラド方言が話される地域とオルドス方言が話される地域は地理的に近いこともあり、オラド方言はオルドス方言の影響をかなり受けていると言える。

## 2. モンゴル語における「譲歩」と「逆接」

ここでは、モンゴル語における「譲歩」、「逆接」について検討する。モンゴル語の「譲歩」と「逆接」について岡田・向井 (2006 [2016 改訂])<sup>9</sup> は、以下のように説明している。

連用節と主文のさまざまなつながり方のうち、節の事態が成立するのに伴って主文の事態も成立するという予想や期待が実現しないことを表すのが**逆接を表す連用節**です。一方、ふたつの事態の関係をいったん仮定したうえで、それが成り立たないことを示すのが**譲歩を表す連用節**です。モンゴル語の場合、両者は連続しています(後略)

岡田・向井 (2006 [2016 改訂])

本稿では、岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) に従い、従属節の**仮定的な事態**が主節の事態を引き起こさないことを表す表現を「譲歩」とし、従属節の**事実的な事態**が主節の事態を引き起こさないことを表す表現を「逆接」と呼ぶことにする。

岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) は、副動詞接尾辞 **-вч** の付加により「譲歩」と「逆接」の例として以下の例を取り上げている。

### (1) *Сэр-Од уурла**вч** хүнтэй хамаагүй хэрэлддэггүй.*

Ser-Od uurla-**vč** xün-tej xamaa-güj xereld-deg-güj.  
PSN 怒る-CVB.CONC 人-COM 関連-NEG 喧嘩する-VN.HBT-NEG

「セルオドは怒ったとしても他人とみだりに口論しません。」

(岡田・向井 2006 [2016 改訂])

### (2) *Манай ангийнхан хичээл тара**вч** шууд гэртээ харьдаггүй.*

Manaj анги-jn-xan xičeel tara-**vč** šuud ger-t-ee  
1PL.GEN クラス-GEN-PROP 授業 退ける-CVB.CONC 直接に 家-DAT-REFL

xar'-dag-güj.

帰る-VN.HBT-NEG

「うちのクラスの人々は授業が終わってもすぐには家に帰りません。」

(岡田・向井 2006 [2016 改訂])

<sup>9</sup> 岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) は東京外国語大学言語モジュールのモンゴル語の言語教材である。インターネット上の教材であるため、ページ数が付されていない。なお、例文 (1)~(3) のグロス筆者が付けたものであるが、和訳は原文のままである。

(3) *Манайд сүх бай**вч** ишгүй, хутга бай**вч** мохоо.*

Manaj-d süx baj-**vč** iš-güj, xutga baj-**vč** moxoo.

1PL.GEN-DAT 斧 ある-CVB.CONC 柄-NEG ナイフ ある-CVB.CONC 鈍い

「我が家には斧があっても柄がなく、ナイフがあっても鈍いです（何の役にも立たないの意）。」

(岡田・向井 2006 [2016 改訂])

岡田・向井 2006 [2016 改訂] によれば、文脈によっては逆接に近い意味を表すこともあるが、節の述語は動詞の語幹から直接作られる以上、独自のテンスを持たないため、あくまでも譲歩のニュアンスが残るといえる。このことから、上記の三つの例文は譲歩と逆接の両方に捉えられると言えよう。

### 3. 先行研究

本節では、まずモンゴル語諸方言における譲歩副動詞接尾辞 -jAA の分布状況を表で示し、次に当該形式に関する研究を紹介する。また、漢語「也 yě」の複文における意味機能に簡単に触れ、-jAA の漢語由来説の問題点を指摘する。

#### 3.1. モンゴル語諸方言における譲歩副動詞接尾辞 -jAA の分布

まず、中国領内のモンゴル語諸方言に関する記述<sup>10</sup>に基づき、-jAA の分布状況と出現形式を確認する。

表 1：中国領内のモンゴル語諸方言における譲歩副動詞接尾辞 -jAA の分布と形式

方言	オイラト	アラシャ ン	オールドス	チャハル	バーリン	ホルチン	ハラチン	バルガ	ブリヤート
形式	—	-jAA(tʃ)	-jAA	-jAA	—	-jAAʃ	-jAčU	-jAA(j)	—

( — は先行研究で扱っていないことを示す)

表 1 から分かるように、-jAA, -jAA(tʃ), -jAAʃ 形式は、アラシャン、オールドス、チャハル、ホルチン、ハラチン、バルガなど多くの方言に存在する。また、モンゴル諸言語の中で、中国領内に分布するダグル語においても -je:ʃ という副動詞接尾辞が存在する（恩和巴図 1991）。一方、この形式はモンゴル国のハルハ方言、ロシアのカムイク語とブリヤート語においては確認されていない。

<sup>10</sup> 中国領内で話されるモンゴル語の諸方言を西から東の順に並べると、オイラト方言 (Siüquwa 2017)、アラシャン方言 (Gereltü 2013)、オールドス方言 (Sečen et al. 2002)、チャハル方言 (Sechenbaatar 2003)、バーリン方言 (Bayarmendü 1997)、ホルチン方言 (查干哈達 1996)、ハラチン方言 (Edquriyayči 1996)、バルガ方言 (Boosiyang ba Ĵirannige 1996)、ブリヤート方言 (Delgerküü 2017) のようになる。なお、ここでいうオイラト方言は主に新疆ウイグル族自治区、青海省、甘肅省で話されている。表 1 は上記の先行研究の記述に基づいて筆者が作成した。

### 3.2. 譲歩副動詞接尾辞 -jAA に関する先行研究の記述

ここでは、-jAA, -jAAɬ, -jAAʃ を譲歩副動詞接尾辞として扱った先行研究のうち、その由来について言及した Sechenbaatar (2003)、Sečen et al. (2002) 及び恩和巴図 (1991) を取り上げ、それぞれの研究において -jAA がどのように記述されているかを見ていく。なお、アラシャン、ホルチン、ハラチン、バルガなどの方言に関する先行研究では、-jAA, -jAAɬ, -jAAʃ を用いる例文が列挙されているのみで、その意味機能の記述がないので、ここでは扱わないことにする。

チャハル方言の文法記述である Sechenbaatar (2003) では、譲歩副動詞接尾辞には元々異なる二つの接尾辞 -wc と -yAA<sup>11</sup> (本稿で扱う -jAA に当たる形式) があると見ている。このうち、-wc はモンゴル語文語の -baču/-bečü に対応する形であり、-yAA は漢語「也 yě」からの借用であると明記している。また、この二つの接尾辞には機能的に明確な違いはなく、どちらも後続する行為との譲歩関係を表し、実際の会話において、-yAA は -wc よりも一般に使用される傾向があると述べている。

#### (4) *magaatar yawyaa oröötküü.*

magaatar yaw-yaa orööt-küü.  
 明日 行く-JAA 遅れる-NEG.NPST  
 「明日行っても遅くならない。」

(Sechenbaatar 2003: 131)

Sečen et al. (2002: 216-217) はオルドス方言の文法記述であり、譲歩副動詞接尾辞 -jAA について、漢語の「也 yě」に由来する可能性を指摘したうえで、モンゴル語文語の -baču/-bečü に対応する -wAtjī と同様に、「主に一つの行為がもう一つの行為の逆の結果となる、或は前件が実現したとしても後件が実現しないことを指す」と説明している。

#### (5) *tjī: xule:ja: xereggue.*

tjī: xule-ja: xereg-gue.  
 2SG.NOM 待つ-JAA 必要-NEG  
 「あなたは待っても無駄だ。」

(Sečen et al. 2002: 217)

#### (6) *bi: ja:xi:ja: jawona:.*

bi: ja:xi:ja: jawo-na:.  
 1SG.NOM どうする-JAA 行く-NPST  
 「私はどうしても行く。」

(Sečen et al. 2002: 217)

<sup>11</sup> Sechenbaatar (2003) と Sečen et al. (2002) は、母音調和による異形態を考慮し -yaa<sup>4</sup>, -ja:<sup>4</sup>, -watjī<sup>4</sup> と表記しているが、本稿では便宜上、大文字で統一する。

また、モンゴル諸語の一つであるダグール語において、譲歩を表す副動詞接尾辞 *-je:f* は機能、形式ともにモンゴル語の *-yaču/-yečü* とよく似ている特徴を持つ。恩和巴図 (1991: 366) によれば、ダグール語には *-tyaitf(iy)* と *-je:f* という 2 つの譲歩副動詞接尾辞があり、「一つの行為がもう一つの行為の制約を受けないことを表す」とされる。さらに、ダグール語の *-je:f* はモンゴル語の *-yaču/-yečü* と同源であり、希求法の一人称意志・願望を表す接尾辞 *-y\_a/ -y\_e* に譲歩語気詞 *=ču/=čü* が後続してできたという<sup>12</sup> (恩和巴図 1991: 366)。

(7) *ʃɪŋ əlje:f xi:wəi, ul əlje:f xi:wəi.*

*ʃɪŋ*      *əl-je:f*      *xi:-wəi,*      *ul*      *əl-je:f*      *xi:-wəi.*  
 2SG.GEN    言う-JAA    する-NPST    NEG    言う-JAA    する-NPST  
 「あなたが言っても、言わなくてもやる。」

(恩和巴図 1991: 366)

(8) *uwa:je:f tərʃɪnʲ arilyuo: xə:sən.*

*uwa:-je:f*      *tərʃɪnʲ*      *aril-yu-o:*      *xə:-sən.*  
 洗う-JAA      それ=2SG.POSS      消える-VN.NPST-REFL      止まる-PST<sup>13</sup>  
 「洗っても (垢が) 消えないで残った。」

(恩和巴図 1991: 366)

モンゴル系諸言語及び諸方言の文法書で扱った *-jAA* の分布と記述はおおむね以上のものである。先行研究はいずれも *-jAA* を譲歩副動詞接尾辞として扱っており、逆接について言及はなく、記述は十分とは言えない。筆者がオルドス方言に関する例文 (5) をインフォーマントに確認したところ、譲歩だけではなく、場合によって逆接の意味も表せることが分かった<sup>14</sup>。一方、例文 (6) の *-jAA* を持つ動詞は副詞的な働きをしている。

ところで、Sechenbaatar (2003) と Sečen et al. (2002) は *-jAA* を漢語の「也 *yě*」に由来するとしているが、恩和巴図 (1991) は *-jAA* を一人称意志・願望を表す接尾辞であると述べている。

漢語の「也 *yě*」はさまざまな意味を持つが、陳 (2012:132-133) は複文において並列、譲歩、逆接の意味を表すと述べ、以下のように譲歩の例文として (9) を、逆接の例文として (10) を挙げている。

(9) 即使自己吃虧, 也不能占別人便宜。

即使    自己    吃虧,      也    不    能      占      別人      便宜。  
 たとえ    自分    損をする    も    NEG    できる    占める    他人 (の)    利益

<sup>12</sup> 恩和巴図 (1991: 366) はまた、もう一つの譲歩副動詞接尾辞 *-tyaitf(iy)* は希求法の三人称許可を表す接尾辞 *-tyai* に譲歩語気詞 *=ču/=čü* が後続して形成されたと述べている。

<sup>13</sup> 恩和巴図 (1991: 305-306) は、*-sən* を過去時制を表す接尾辞として記述している。

<sup>14</sup> オルドス方言の用例については、内モンゴル自治区オルドス市イジンホロー旗在住の SN 氏 (1979 年生まれ、女性) に確認した。

「たとえ自分が損をしたとしても、人から甘い汁を吸ってはいけない。」

(陳 2012: 133)

(10) 他雖然不及格，也被錄取了。

他 雖然 不 及格， 也 被 錄取 了。

3SG.NOM とはいえ NEG 合格する も PASS 採用する PFV

「彼は合格しなかったのに、採用されてしまった。」

(陳 2012: 132)

例文から分かるように、漢語の「也 yě」を用いた譲歩と逆接を表す文は、いずれも文頭で「即使(たとえ～であっても)」、「雖然(といっても、とはいえ)」などの副詞を用いている。そして、「也 yě」は常に主節に現れ、動詞の後に来る用例は見られない。一方、モンゴル語の副動詞接尾辞 -jAA は従属節に現れ、動詞語幹にしか後続しない。また、モンゴル語では、副詞を用いなくても、-jAA のみで譲歩と逆接の意味を表現できる。したがって、-jAA と「也 yě」は類似点が少ないようである。

#### 4. 調査資料

本稿で提示するオラド方言のデータとしては、自然談話などから得られた事例<sup>15</sup>を主に使用する。それに加えて前田 (2009) や日本語記述文法研究会 (編) (2008) など日本語の条件表現に関する研究書の例文と、Čenggeltai (1999) や Kullmann and Tserenpil (1996 [2008]) におけるモンゴル語固有の譲歩副動詞接尾辞 -baču/ -bečü の例文を参考にする<sup>16</sup>。

#### 5. 調査結果

本節では、オラド方言における -jAA の形態統語的特徴を 5.1. で、意味機能を 5.2. でそれぞれ整理する。

##### 5.1. -jAA の形態統語的特徴

###### 5.1.1. -jAA のバリエーション

-jAA には、母音調和による -jaa, -joo, -jeɛ という 3 つの異形態が存在する。表 1 で見たように、方言によって -jAA に譲歩小辞 =č がついて形成されたと言われる -jAAtʃ や -jAAʃ などの副動詞接尾辞が存在するが、オラド方言においては -jAA 形式のみ確認できる。なお、モンゴル語固有の譲歩を表す副動詞接尾辞 -baču/ -bečü については今回の調査で確認されていない。

<sup>15</sup> 例文は筆者が 2018～2020 年の間にオラド方言の自然談話の録音・書き起こしと面接調査を行った際に収集したものを使用した。母語話者の年齢層は 20 代から 60 代である。

<sup>16</sup> 具体的には、筆者が日本語の例文と -baču/ -bečü の例文をオラド方言に訳したあと、他の母語話者に容認度判定をしていただいた。筆者 (1985 年生まれ、女性) はオラド方言話者であり、分析にあたって内省も適宜用いた。容認度判定に協力していただいたインフォーマントは、OD 氏 (1960 年生まれ、女性)、JY 氏 (1979 年生まれ、女性)、QL 氏 (1988 年生まれ、女性) の 3 名である。



### 5.1.2. 前接形式、後続形式

モンゴル語の動詞内において、形態素は「動詞語基—ヴォイス接尾辞—アスペクト接尾辞—一定動詞／副動詞／形動詞接尾辞」の順序で現れる。副動詞接尾辞 *-jAA* は動詞語幹に後続し、テンスを持たない。(11) は動詞語基 *song-* 「選ぶ」に受動のヴォイス接尾辞 *-gd*、完了を表すアスペクト接尾辞 *-č*、副動詞接尾辞 *-jAA* がついた例である。

(11) *xinən songagdačjεε edəlxəŋ.*

xin-ə=n            song-a-gd-a-č-jεε            edəl-xəŋ.  
誰-EP=3.POSS    選ぶ-EP-PASS-EP-PFV-JAA    同じ-DIM  
「誰が選ばれても一緒だ。」

また、*-jAA* は本動詞だけではなく、補助動詞にも後続できる<sup>17</sup>。

*-jAA* にはとりたて小辞や文末小辞などが後続することができ、モダリティ形式が従属節の述語と共起できる。共起しうる要素としては、=č (譲歩)、=l (限定)、=dAA (妥当性) の3つが確認された。下記の例文 (13) と (14) では、いずれも主節の事態に対する否定的なニュアンスが表出される。

(13) *iijigiŋ bijən moo, idjεε l xidiixəŋ idxiiŋ dɔɔ.*

iij-i-g-iin        bij-ə=n            moo, id-jεε=l            xidii-xəŋ  
祖母-EP-GEN    体-EP=3.POSS    悪い    食べる-JAA=PTCL    いくら-DIM  
id-x=iin=dɔɔ.  
食べる-VN.NPST=Q=SFP  
「祖母の体が良くない。食べてもあまり食べられないね。」

(14) *tir uxətəl dabtjaa č daa, xir tiŋčxiimuu daa.*

tir            ux-ə-təl            dabt-jaa=č=daa,            xir        tiŋč-x=iim=uu=daa.  
3SG.NOM    死ぬ-EP-CVB.LMT    復習する-JAA=PTCL=SFP    基準    合う-VN.NPST=SFP=Q=SFP  
「彼が死ぬほど復習してもね、合格するのかね。」

### 5.1.3. 共起関係

*-jAA* は形式上、否定形式と共起しないが、*bεε-* 「やめる」という否定の意味を含意する動詞と共起する例は確認された。

<sup>17</sup> *-jAA* が補助動詞に付く例は以下のようである。

(12) *in busii berj ujjεε ɔndɔɔŋ bεεn.*

in    bus-ii    ber-j            uj-jεε        ɔndɔɔŋ    bεε-n.  
これ 布-ACC 触る-CVB.IPFV    見る-JAA    違う    ある-NPST  
「この布を触ってみるだけでも（やはり）違うんだ。」

(15) *tir čin in aĵlaaŋ xiixeeŋ beečjεε uur ɔrlɔgtεε.*

tir=čin                      in      aĵl-aaŋ                      xii-x-εeŋ                      bee-č-jεε                      uur  
 3SG.NOM=2SG.POSS      これ      仕事-REFL      する-VN.NPST-REFL      やめる-PFV-JAA      別の  
 ɔrlɔg-tεε.  
 収入-PROP

「彼はこの仕事をしなくなったとしても、他の収入がある。」

-jAA は様々な疑問語と共起する。-jAA が導く従属節に疑問語と共起する場合、前件で言及されているすべての事態において、或はどのような事態であっても、後件が実現するということを表している。

(16) *xiiŋ xiljεε bii jabkœ<sup>18</sup>.*

xiiŋ      xil-jεε                      bii                      jab-kœ.  
 誰      話す-JAA      1SG.NOM      行く-NEG.NPST

「誰が言っても私は行かない。」

(17) *juu idjεε targalkuu.*

juu      id-jεε                      targal-kuu.  
 何      食べる-JAA      太る-NEG.NPST

「何を食べても太らない。」

(18) *gergiin tabnaas bə̄sɔd čεgd xijεε ɔčjɔɔ bɔlɔn.*

gerg-iin      tabn-aas      bə̄sɔd      čεgd-d      xijεε      ɔč-jɔɔ                      bɔl-ɔ-n.  
 曜日-GEN      五-ABL      以外      時間-DAT      いつ      行く-JAA      なる-EP-NPST

「金曜日以外の日なら、いつ行ってもいい。」

#### 5.1.4. 条件の並立

-jAA が導く従属節は2つ以上並ぶことができない。例文 (19) と (20) では、並列条件が同じ帰結を導く事態が複数存在することを示しているが、(19') と (20') は非文である。これは -jAA が漢語の「也 yě」のような並列を表す働きを持たないことに起因すると考えられる。

(19) *bii tiruunteε mɔŋglɔɔr jεrjεε midkui, x<sup>1</sup>atdaar jεrjεε midkui.*

bii                      tiruun-tεε      mɔŋgl-ɔɔr                      jεr-jεε                      mid-kui,                      x<sup>1</sup>atd-aar  
 1SG.NOM      3SG-COM      モンゴル-INS      話す-JAA      知る-NEG.NPST      漢-INS

<sup>18</sup> 形動詞 -x と ugui が融合したと思われる非過去の否定接尾辞はここに示した -kuu のほかにも -kue, -kui, -koo, -kœ, -koa などの異形態が存在する。グロスは [-NEG.NPST] で統一する。

jer-jeɛ mid-kui.

話す-JAA 知る-NEG.NPST

「私は彼とモンゴル語で話しても通じないし、漢語で話しても通じない。」

(19') \**bii tiruunteɛ mɔŋglɔɔr jerjeɛ, x'atdaar jerjeɛ midkui.*

「私は彼とモンゴル語で話しても漢語で話しても通じない。」

(20) *in čegii gaɟar ɔŋgaačjaa xagarkuu, ɔsand nɔɔɟčjuɔ balbarkuu.*

in čeg-ii gaɟar ɔn-gaa-č-jaa xagar-kuu, ɔsan-d  
これ 時計-ACC 地面 落ちる-TRVZ-PFV-JAA 割れる-NEG.NPST 水-DAT  
nɔɔɟ-č-juɔ balbar-kuu.  
濡れる-TRVZ-PFV-JAA 壊れる-NEG.NPST

「この時計を地面に落としても壊れないし、水に濡らしても壊れない。」

(20') \**in čegii gaɟar ɔŋgaačjaa, ɔsand nɔɔɟčjuɔ balbarkuu.*

「この時計を地面に落としても水に濡らしても壊れない。」

また、従属節において同じ事態が繰り返される場合、-jAA を取る動詞を並列させることができず、xičneɛŋ「いくら」や ɔlɔŋ「多い」などの語を加えることにより許容される。以下の (21) と (21') を参照されたい。

(21) *in kinɔɔgu xičneɛŋ ɔdaa uɟjeɛ xaširkɔɔ.*

in kinɔɔ-g-II xičneɛŋ ɔdaa uɟ-jeɛ xašir-kɔɔ.  
これ 映画-EP-ACC いくら 回 見る-JAA 飽きる-NEG.NPST  
「この映画を何回見ても飽きない。」

(21') \**in kinɔɔgu uɟjeɛ uɟjeɛ xaširkɔɔ.*

「この映画を見ても見ても飽きない。」

下記の (22) と (23) のように、肯定と否定で対立する条件を並べるとき、-jAA を用いて肯定的条件を表し、とりたて小辞 =jAA を用いて否定的条件を表すことができる。

(22) *in xɔrald ɔɟjuɔ bɔlɔn, ɔrkuu jeɛ bɔlɔn.*

in xɔral-d ɔɟ-juɔ bɔl-ɔ-n, ɔr-kuu=jeɛ bɔl-ɔ-n.  
これ 会議-DAT 入る-JAA なる-EP-NPST 入る-NEG.NPST=PTCL なる-EP-NPST  
「この会議に参加してもいいし、参加しなくてもいい。」

(23) *ugjεε taarkuu, ugkuu jεε taarkuu, одоо цохам жаабал таархиη?*

ug-jεε      taar-kuu,      ug-kuu=jεε      taar-kuu,      одоо      цохам  
 あげる-JAA    合う-NEG.NPST    あげる-NEG.NPST=JAA    合う-NEG.NPST    今      一体  
 jaa-bal      taar-x=iηη?  
 どうする-CVB.COND    合う-VN.NPST=Q  
 「あげてもだめだし、あげなくてもだめ。今一体どうすればいいの？」

上記の例文 (22) と (23) では、形動詞接尾辞 -x と形容詞 *ugui* 「ない」の融合した形 -kuu にとりたて小辞 =jAA が後続していることが分かる。ホリロ (2021) で述べたように、=jAA は漢語の「也 *yě*」に由来するとされるとりたて小辞であり、名詞類全般、一部の動詞類と不変化詞類に後続する。累加、極限、ぼかし、当たり前、逆接、譲歩といった意味を表すほか、疑問語や数量詞と共起する。

接辞と接語を区別する基準として、①様々な語類をホストにとることができるか、②独立度が高いかが挙げられる (長屋 2015: 133)。この基準に従えば、オラド方言の =jAA は前述したように名詞を始め多くの語類をホストにとるのに対し、-jAA は語基を自由に選べず、動詞語幹にしかつかない。また、一定の条件で =jAA は節内に移動、削除などが可能である。したがって、=jAA は -jAA に比べて独立度が高いと言える。次の例文 (24) では、=jAA を削除しても元の文と大きな差は見られない。

(24) *tir nōm-iηη san-d ɔč-i-x(=jεε) magadgui, ɔč-kuu(=jεε) magadgui.*

tir      nōm-iηη    san-d      ɔč-i-x(=jεε)      magadgui,      ɔč-kuu(=jεε)  
 3SG.NOM    本-GEN    倉-DAT    行く-EP-VN.NPST=JAA    かもしれない    行く-NEG.NPST=JAA  
 magadgui.  
 かもしれない  
 「彼は図書館に行くかもしれないし、行かないかもしれない。」

## 5.2. -jAA の意味機能

ここでは、複文において副動詞接尾辞 -jAA が果たす意味機能について考察する。副動詞接尾辞 -jAA が導く従属節の事態が仮定であるか、事実であるか、或はその両方とも捉えることができるかによって例文を分析する。

### 5.2.1. 譲歩的用法

2. 節で述べたように、モンゴル語における譲歩は、従属節の仮定的な事態が主節の事態を引き起こさないことを指す。例文 (25) と (26) のように、従属節で表される事態が未来に成立する場合、譲歩関係を表す。

(25) *daraa gerəg bileet abjāa amjīn.*

daraa    gerəg    bileet      ab-jāa      amjī-i-n.  
 翌      週      チケット    取る-JAA    間に合う-EP-NPST

「来週チケットを取っても間に合う。」

(26) *margaaš giičin ir-ije bii jabna.*

margaaš giičin ir-ije bii jab-na.  
明日 客 来る-JAA 1SG.NOM 行く-NPST  
「明日お客さんが来ても私は行く。」

主節の述語が推量のモダリティの場合、譲歩関係を表す。例文 (27) と (28) は推量の文であり、推量を表す副詞 *barag* 「たぶん」や文末小辞 =*waa* 「だろう」が用いられている。

(27) *in xæni xodald-jaa barag und xurkuu.*

in xæn-ii xodald-jaa barag un-d xur-kuu.  
これ 羊-ACC 売る-JAA たぶん 値段-DAT 着く-NEG.NPST  
「この羊を売ってもおそらく高い値段がつかないだろう。」

(28) *gui-ije barag amjkuu laa waa.*

gui-ije barag amj-kuu=laa=waa.  
走る-JAA たぶん 間に合う-NEG.NPST=SFP=SFP  
「走ってもたぶん間に合わないだろう。」

主節の述語が意志・勧誘を表す場合、譲歩関係を表す。(29) は意志、(30) は勧誘を表す例文である。

(29) *čas or-jo bii sorgooldaaj jabn daa.*

čas or-jo bii sorgool-d-aaŋ jab-ii=daa.  
雪 降る-JAA 1SG.NOM 学校-DAT-REFL 行く-1.VOL=SFP  
「雪が降っても私は学校に行くしかないな。」

(30) *čas or-jo manoo sorgooldaaj jabn daa.*

čas or-jo manoo sorgool-d-aaŋ jab-ii=daa.  
雪 降る-JAA 1PL.NOM 学校-DAT-REFL 行く-1.VOL=SFP  
「雪が降っても私たちは学校に行こうよ。」

主節の述語が評価のモダリティの場合、譲歩関係を表すことがある。(31) の例文は否定禁止を表している。

(31) *xeruultiin mid-ije doo garagj bəlkoε.*

xeruult-ii=n mid-ije doo gar-g-a-ŋ bəl-koε.  
答え-ACC=3.POSS 知る-JAA 声 出る-TRVZ-EP-CVB.IPFV なる-NEG.NPST



上で述べた譲歩と逆接のほかに、従属節の述語が進行や完了の aspekto を表す場合は、譲歩と逆接の両方を表すことがある。次の (36) は -ji による進行 aspekto、(37) は -č による完了 aspekto の用例である。

(36) *bərcəŋ ərjijɛɛ bii jüil-d gar-a-n.*

bərcəŋ ər-jī-jɛɛ bii jüil-d gar-a-n.  
 雨 降る-PROG-JAA 1SG.NOM 街-DAT 出る-EP-NPST  
 「雨が降っていても、私は街に出る。」

(37) *bagš čin čemɛɛgii jaagaa xilčjɛɛ bitii ušeerxɛɛd bɛɛ.*

bagš=čin čemɛɛ-g-ii jaa-g-aa xil-č-jɛɛ bitii  
 先生=2SG.POSS 2SG-EP-ACC どうする-EP-CVB.PFV 言う-PFV-JAA PROH  
 ušeerx-ɛɛd bɛɛ-ø.  
 抵抗する-CVB.PFV ある-2.IMP  
 「先生があなたをどんなに叱っても抵抗するな。」

## 6. まとめと今後の課題

本稿では、モンゴル語オラド方言の副動詞接尾辞 -jAA について、その形態統語的特徴と意味機能について考察し、以下のようなことを明らかにした。

### 1) 形態統語的特徴：

-jAA は動詞語幹に後続し、それに先行する形式にはヴォイス、アスペクトなどの接尾辞が来ることができる。後続する形式には、=č, =l, =daa などのとりたて小辞と文末小辞が来ることが可能である。従属節の中で否定形式と共起しないが、否定的意味を含意する動詞 bɛɛ-「やめる」と共起するほか、各種の疑問語とも共起することが可能である。また、-jAA が導く従属節は2つ以上並ぶことができない。

### 2) 意味機能：

複文において、副動詞接尾辞 -jAA は譲歩のほかに逆接の意味機能を果たすことができる。従属節の事態が未来に成立する場合、主節の述語が推量、意志・勧誘、否定禁止を表す場合は譲歩の意味を表す。一方、従属節の事態が過去に成立した場合やその事態が繰り返される場合、或は自然法則などを表すときは逆接の意味を表す。

従来の先行研究では、-jAA を譲歩副動詞接尾辞として扱うのみで、逆接的用法に関する記述はなかった。また、-jAA について漢語の「也 yě」に由来すると先行研究で扱っているが、その根拠が示されず、説得力に欠ける。「也 yě」は譲歩と逆接を表す際に、いずれも文頭に「即使(たとえ～であっても)」、「雖然(たとえ、でも)」などの副詞を伴う。また、モンゴル語と違って従属節ではなく、常に主節に現れる。一方、モンゴル語の副動詞接尾辞 -jAA は従属節に現れ、動詞語幹にしか後続しない。したがって、オラド方言の -jAA も漢語の「也 yě」とは関係なく、モンゴル語固有の要素であると考えられる。

この -jAA という形式は、また副詞や接続詞などの非従属的用法もみられるが、このことについては別の機会に譲りたい。モンゴル語の一人称意志形 -jAA の意味拡張の可能性を検

討するまでには至らなかったが、今後の課題としたい。

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、適確なご指摘と有益なコメントをくださった査読者の先生方に心より感謝申し上げます。当然なことながら本稿におけるすべての誤謬は筆者に帰するものです。

## 略語一覧

-	形態素境界	HBT	habitual 習慣	PROP	property 属性
=	接語境界	HON	honorific 敬称	PSN	person name 人名
1	first person 1 人称	IMP	imperative 命令	PST	past 過去
2	second person 2 人称	INS	instrumental 道具格	PTCL	particle 小辞
3	third person 3 人称	IPFV	imperfective 不完了	Q	question particle 疑問小辞
ABL	ablative 奪格	LMT	limitative 限界	REFL	reflexive 再帰
ACC	accusative 対格	NEG	negative 否定	SFP	sentence final particle 文末小詞
COM	comitative 共同格	NOM	nominative 主格	SG	singular 単数
CONC	concessive 譲歩	NPST	non-past 非過去	TRVZ	transitivizer 他動詞化
COND	conditional 条件	PASS	passive 受身	VN	verbal noun 形動詞
CVB	converb 副動詞	PFV	perfective 完了	VOL	volitional 意志
DAT	dative-locative 与位格	PL	plural 複数		
DIM	diminutive 指小辞	POSS	possessive 所有		
EP	epenthesis 挿入音	PROG	progressive 進行		
GEN	genitive 属格	PROH	prohibitive 禁止		

## 参考文献

- 巴彦淖爾市第六次全国人口普查領導小組辦公室 (編) (2012) 《巴彦淖爾市 2010 年人口普查資料》太原：年鑒社。
- Bayarmendü, Borjigin (1997) *Bayarin aman ayalyun-u sudulul*. Kökeqota: Öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriy\_a.
- Boosiyang ba Bo, Ĵirannige (1996) *Baryu aman ayalyu*. Kökeqota: Öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin keblel-ün qoriy\_a
- 查干哈達 (1996) 《蒙古語科爾沁土語研究》北京：社会科学文献出版社。
- Čenggeltei (1978) Dumdadu ulus-un mongyul kelen-ü ayalyu nuγud-i qubiyarilaqu tuqai sanal. *Öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül*.(3): 1-32.
- Čenggeltei (1999) *Odu üy\_e-yin mongyul kelen-ü jüi (nemen ĵasaysan keblel)*. Öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriy\_a.
- 陳鴻瑤 (2012) 《現代漢語副詞“也”的功能与認知研究》長春：長春出版社。



- Delgerkütü (2017) Buriyad ayalγu. In: Bayatur, D. (erkilen nairayulba) *Mongγul kelen-ü nutuy-un ayalγun-u qubiyarilalta-yin sudulγan*, 142-198. Kökeqota: Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin keblel-ün qoriy\_a.
- Edquriyayçi (1996) *Mongγuljin aman ayalγu*. Kökeqota: Öbür mongγul-un surγan kümüjil-ün keblel-ün qoriy\_a.
- 恩和巴圖 (1991)《達斡爾語和蒙古語》蒙古語族語言方言研究叢書 004. 呼和浩特：內蒙古人民出版社.
- Gereltü, Na. (2013) *Alaša aman ayalγun-u sudulul*. Kökeqota: Öbür mongγul-un arad-un keblel-ün qoriy\_a.
- ホリロ (2021)「モンゴル語オラド方言の小辞 =jAA について—とりたての観点から—」『思言』17: 27-48.
- Kullmann, Rita and D. Tserenpil (1996 [2008]) *Mongolian Grammar*. Ulaanbaatar: Academy of Sciences, Institute of Language and Literature.
- 栗林均 (1989)「内蒙古語」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編著)『言語学大辞典 第2巻 世界言語編 (中)』1426-1434. 東京：三省堂.
- Лувсанвандан (1959) *Монгол хэл аялгууны учир*. Улаанбаатар : ЭШХ.
- 前田直子 (2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』東京：くろしお出版.
- 長屋尚典 (2015)「接語」斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編)『明解言語学辞典』133. 東京：三省堂.
- Naranbatu, Ü (1994) Urad aman ayalγun-u tuqai. *Öbür mongγul-un baγsi-yin yeke surγayuli-yin erdem sinjülegen-ü sedkül*. (2): 28-35.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2008)『現代日本語文法 6 第11部 複文』東京：くろしお出版.
- 岡田和行・向井晋一 (2006 [2016 改訂])「東京外国語大学言語モジュール：モンゴル語文法モジュール (項目別復習コース Lesson 21, Step 4. 連用節 (4) 逆接と譲歩 [解説])」<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/explanation/087.html> (最終確認：2021年12月10日)
- Sečen, Či., M. Bayatur ba Sengge (2002) *Ordus aman ayalγun-u sudulul*. Kökeqota: Öbür mongγul-un arad-un keblel-ün qoriy\_a.
- Sechenbaatar, Borjigin (2003) *The Chakhar dialect of Mongol: A morphological description*. Helsinki: The Finno-Ugrian Society.
- Sitüquwa (2017) Oirad ayalγu. In: Bayatur, D. (erkilen nairayulba) *Mongγul kelen-ü nutuy-un ayalγun-u qubiyarilalta-yin sudulγan*, 561-648. Kökeqota: Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin keblel-ün qoriy\_a.
- Urad teüke soyul nairayulqu komis (2013) *Urad teüke soyul*. Kökeqota: Öbür mongγul-un arad-un keblel-ün qoriy\_a.

## The Converbal Suffix -jAA in the Urad Dialect of Mongolian

Haorile

(Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords: Mongolian, Urad dialect, concessive expressions, contradictory expressions

The present study aims to examine the meaning and function of the converbal suffix -jAA in Urad dialect of Mongolian language spoken in China. In the Urad dialect, the form -jAA has been observed as a converbal suffix expressing concession. In this paper, I describe the morphosyntactic features and meaning of the converbal suffix -jAA in the Urad dialect. Previous studies (Sechenbaatar (2003), Sečen et al. (2002)) have stated that -jAA is derived from the Chinese word “yě”. The Chinese word “yě” is accompanied by other adverbs at the beginning of a sentence when expressing concession and contradiction. Also, it always appears in main clauses, never in subordinate clauses. On the other hand, the Mongolian transgressive suffix -jAA appears in subordinate clauses and it can only follow the verb stem. Therefore, -jAA in the Urad dialect is considered to be an element unique to Mongolian and not related to the Chinese “yě”. In compound sentences, the converbal suffix -jAA was found out to express not only the meaning of concession but also the meaning of adversation. Previous studies only treated -jAA as a concessive, and there were no studies on its adversative usage.

(ホリロ horlo2009@yahoo.co.jp)